

第2回 医療安全心理・行動学会 学術総会

医療現場と心理学・行動学の架け橋

会期 2025年3月8日(土)～9日(日)

会場 大阪大学コンベンションセンター

共同総会長

篠原 一光

(大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

藤田 眞幸

(慶應義塾大学医学部法医学教室 教授)

遠藤 純男

(大和徳洲会病院 医療安全管理部長)

各会場入り口では参加証ないし参加費領収書をご提示ください。
不携帯の際にはご入場いただけません。

(対象者) 医療安全に関する心理・行動に関心のある方。
医科医療安全、歯科医療安全、医薬品安全、医療機器安全、看護安全、リスクマネジメント、品質管理、ヒューマンファクターと安全工学、リスクコミュニケーション、臨床コーチング、法行政学、医療経済学、医療経営学、情報科学、行動科学、認知科学、疫学・統計、心理学、行動学研究者、病院経営者、病院長、医療行政担当者、総括医療安全管理者、医科医療安全管理者、歯科医療安全管理者、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、病理医、臨床医、薬剤師、保健師、看護師、訪問看護師などの在宅医療関係者、ケアマネージャー、介護福祉士、臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、院内法務担当者、弁護士、研修医、学生、医療産業従事者、その他の医療職の方



目次

ご案内	1
ごあいさつ	5
学会の趣旨・お知らせ（次年度総会）	8
日程表	9
報道関係の方へ	11
展示企業の方へ	11
交通のご案内	12
会場のご案内	13
飲食について	13
座長・演者へのお知らせとお願い	14
プログラム 3月8日（土）	15
プログラム 3月9日（日）	18
医療安全心理・行動コンサルタント 資格制度について	22
学術雑誌「医療安全の心理・行動」	24

(オンデマンド配信)

期間中は繰り返し視聴可能です。

2025年3月14日(金)～2025年4月13日(日)

(視聴方法)

- ・オンデマンド配信の視聴方法等は2025年3月14日までにメールにて参加者へお届けします。
- ・オンデマンド配信はインターネットに接続可能な機器でご視聴頂けます。

※当日のトラブルや演者の都合により、一部ご視聴いただけない場合がございます。予めご了承ください。

(必要な機材)

- ・インターネットに接続して、音声を流すことができるPC等の電子機器。
- ・PDFファイルの閲覧ソフト(例:Acrobat Reader、無料版あり)
- ・ブラウザの動作確認はGoogle Chrome、Microsoft Edgeにて行っております。

(参加申込方法)

事前参加登録は2月9日に締切りました。

会期中、会場受付にて当日参加申込を受付けます。

オンデマンド配信のみの当日参加申込は開催後の3月10日以降にご案内を開始いたします。

ご不明な点等がございましたら 2psyb@mspo.org へお問い合わせください。

(電子版抄録集の URL の通知)

参加費支払い済みの方へ電子メールにて事前にお知らせします。

(参加証)

開催1週間前頃に電子版参加証を電子メールにてお送りします。

来場の際、各会場入り口では参加証ないし参加費領収書をご提示ください。

(領収書)

電子版領収書を電子メールにてお送りします。

PayPal による支払の場合、支払完了時に PayPal より自動送付されるものをお使いください。

(印字版抄録集の配布)

購入希望者に会場でお渡しします。

会期中に会場に来場されない方へは、郵送にてお送りします。

印字版抄録集の購入をご希望の場合は購読料(3000円)をお支払ください。

事前参加登録方法

1. 事前参加申込締切： 2025年2月9日（日）

2. 参加費

	医療安全心理・ 行動学会の会員 (医師)	医療安全心理・ 行動学会の会員 (医師以外)	非会員 (医師)	非会員 (医師以外)
事前参加費（非課税）	8,000	4,000	10,000	6,000
当日参加費（非課税）	10,000	6,000	12,000	8,000
印刷抄録集	3,000	3,000	3,000	3,000

- ・ お支払を完了された方には、参加証をお送りいたします。
- ・ PayPal による支払の場合、領収書は支払完了時に PayPal より自動送付されるものをお使いください。
- ・ 参加費には電子版抄録集を含みます。

3. 参加費振込：

支払締切：2025年2月9日までに振り込み控えを FAX ください。

2025年2月10日以降は会場での現金支払をお願いいたします。

(振込先口座)

銀行支店名：みずほ銀行 本郷支店

支店番号：075

口座番号：普通 4197366

口座名義：MSSPB 総会（エムエスエスピービーソウカイ）

4. カード決済(PayPal)：

PayPal を利用したカード決済方法となります。以下の URL よりお支払が可能です。

<https://mspo.org/msspb/2stpsyb/register/index.html>

※支払項目をご選択の上、お支払ください。

※誤った項目を選択し、返金をご希望の場合は支払月末迄に事務局へご連絡ください。

第2回 医療安全心理・行動学会学術総会

会期： 2025年3月8日(土)～9日(日)
場所： 大阪大学コンベンションセンター

【総会長】

篠原 一光 (大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
藤田 眞幸 (慶應義塾大学医学部法医学教室 教授)
遠藤 純男 (大和徳洲会病院 医療安全管理部長)

【プログラム委員長】

新村 美佐香 (菊名記念病院)

【プログラム副委員長】

大原 志歩 (済生会横浜市東部病院)
三上 久美子 (国際医療安全推進機構 客員シニアフェロー)

【組織委員長】

郷間 巖 (堺市立総合医療センター)

【組織副委員長】

小山 智史 (京都橘大学看護学部看護学科 准教授)
鈴木 高弘 (横浜薬科大学実務実習センター)

【実行委員長】

飛田 結実 (国際医療安全推進機構)

プログラム委員会： 理事会に同じ

組織委員会： 特別会員、その他

実行委員会： 正副会長、全理事、全代議員、その他

主催

医療安全心理・行動学会

後援

文部科学省

【学会】一般社団法人国際医療安全推進機構、国際医療リスクマネジメント学会、日本医療安全推進学会、

患者・家族メンタル支援学会、日本心理学会、日本行動科学学会、

日本社会心理学会、日本認知心理学会、日本認知科学会

【専門職団体】日本医師会、日本看護協会、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本歯科医師会、日本臨床工学技士会、日本診療放射線技師会、

日本歯科衛生士会、日本リハビリテーション医学会

青森県医師会、愛知県医師会、鳥取県医師会、島根県医師会

岩手県看護協会、宮城県看護協会、茨城県看護協会、栃木県看護協会、埼玉県看護協会、千葉県看護協会、富山県看護協会、

公益社団法人 福井県看護協会、滋賀県看護協会、京都府看護協会、奈良県看護協会、島根県看護協会、広島県看護協会、徳島県看護協会、熊本県看護協会

千葉県病院薬剤師会、岡山県病院薬剤師会

ごあいさつ

共同総会長挨拶

篠原 一光

大阪大学 大学院人間科学研究科 教授



第2回医療安全心理・行動学会を大阪大学にて開催させていただきます。本学会は医療安全の研究と実践に関わる医師・看護師・薬剤師など医療従事者と、心理学、行動科学、社会学等様々な研究領域で安全に関する研究をおこなっている研究者が協働し、医療安全を推進する場を作ることを目指しているものです。私自身は認知心理学の立場から道路交通安全を中心として研究を行っており、医療安全領域での研究を専門としているわけではありませんが、安全に関する心理学研究を行っている専門家と、医療安全領域の橋渡し役としてお役に立ちたいと考えております。医療安全を専門とされている方もまたそうでない方も、本大会にご参加いただき、広く「安全」について語り合い考える機会としていただきたいと思います。

共同総会長挨拶

藤田 眞幸

慶應義塾大学医学部法医学教室 教授



このたび、心理学者であられる篠原一光先生と、実際に病院で診療と医療安全管理を行っておられる遠藤純男先生とともに、共同総会長として、第2回学術総会の開催に携わらせていただくこととなりました。私の専門は法医学であり、心理や行動に関する専門家ではありませんが、これまで、医療事故や労災事故などの法医解剖を担当して事故がどのようなときに起こりやすいかをみてきました。また、病院で病理専門医として診療に従事してきた経験、慶應義塾大学病院の医療安全管理委員会のアドバイザーとしての経験、医療安全の研修会での講師としての経験や、さらには医療安全管理者養成研修に受講者として参加した経験などから、人間の心理・行動を考えることが、医療安全における重要な鍵であるという強い思いをもっています。

医療事故防止を考える上では、最初から治療方針を間違えていたり、処置等をやり損なったりするといったような問題もありますが、誰しもが陥りがちな落とし穴、思い込み・勘違い・うっかりしたやり忘れなどが、どのようなときに生じやすいかという問題があります。

また、医療安全の知識は実際に行動に移されて、はじめて、本当の意味で理解されて普及したと言えるものですが、それを実現させるためには、人間の行動について考えることが大切になってきます。業務の中で、ごく自然に苦痛なく安全な方法を実践してしまうような環境、そういった心理的快適性の実現についても考える必要があります。

本学会におきましては、いろいろな専門分野の学者達が、自分の経験や考察に基づいて意見を述べ合い、それぞれの分野の知識をすりあわせて、最適の解決策を講じていくことができるようになることを目指しています。また、他の分野の専門家の難しい知識を、自分の専門にも活かしていくことができるといったような点も期待されています。このたびの学術集会在、参加される方々にとって、今後の医療安全推進の大切な機会となりますことを心から願い、開催の御挨拶とさせていただきます。

共同総会長挨拶

遠藤 純男

医療法人徳洲会 大和徳洲会病院
医療安全管理室長／脳神経外科主任部長



この度、第2回 医療安全心理・行動学会学術総会の共同総会長を拝命いたしました。

本学会は医療安全を推進するために必要な人的側面の向上のための学術団体で、医療安全に関する心理・行動研究を普及し、人的側面上の課題の解決活動によってより高度な医療安全文化を有する医療を構築します。そのために、医療従事者、心理・行動・コミュニケーション・社会学等の研究者、法曹界など、広く様々な分野の方々との交流の場を提供します。

私は2022年1月から、医療法人徳洲会 大和徳洲会病院の医療安全管理室長として、院内の医療安全に関する複数の取り組みをさせていただいてきました。

(1) 医療安全啓蒙・教育活動：1) 医療事故調査制度、2) 医療安全学と失敗学、3) Team STEPPS を通しての患者中心のチーム医療とコミュニケーション。

(2) 院内活動：1) ヒヤリハット、インシデント・アクシデント報告の分析と対策立案、2) 各種委員会の整備：臨床倫理委員会と臨床倫理コンサルテーション、薬事委員会と臨時薬事委員会、ハラスメント委員会、3) 急変時対応、4) 警察とも連携した暴言暴力対策、5) 他。

医療安全活動を行う際に重要なことは、医療安全管理者と医療安全管理室に対する職員や関係者（患者・家族等）からの信頼を如何に得るかです。私たち医療安全管理者は、相談されたことに真摯に対応し、結果をフィードバックしながら最終的により良い改善策を提案し、行動を起こすことが重要です。職員や関係者間の良好なコミュニケーション作りも重要で、当院では言いたいことや本音を自由に言える職場環境作りを医療安全活動の優先目標の一つに掲げています。また、患者や家族がチーム医療の中心にあることの認識もチーム内で共有しなければなりません。このように、基本に立ち返った普段の取り組みが、職員や関係者の医療安全に対する意識を変えていき（心理）、医療安全文化が職場に行き渡り（医療安全文化の醸成）、問題意識を持ちながら仕事をする（行動）職員が増えていくことが期待でき、最終的に、患者や家族が安心して診療を受けられ、職員が安心して仕事ができる医療機関を作り上げることができると考えています。

全国の医療関連施設で医療安全に関するさまざまな取り組みがなされています。医療安全心理・行動学会は、各施設や研究者の取り組みの発表・討論・情報交換や共有、施設・研究者間の連携を行うなどの場を提供することで、医療安全の取り組みの質や内容を高め、施設・研究者間で連携して取組みを行うなど、学会の場を利用しての種々な活動や研究が可能になります。皆様には、本学会を積極的に活用していただければ幸いです。

学会の趣旨

本学会は医療安全を推進するために必要となる人的側面の向上のための学術団体で、一般社団法人国際医療安全推進機構が主催する学会の1つです。

医療安全に関する心理・行動研究を普及し、医療安全における人的側面上の課題の解決活動によって、より高度な医療安全文化を有する医療を構築します。医師・看護師・薬剤師などの医療従事者のみならず、心理研究者、行動研究者、コミュニケーション研究者、組織行動研究者、社会学研究者、法曹界など、広く様々な分野の方々と交流を促進します。

(主たる課題)

- ・ 医療安全ウェルビーイング
- ・ 医療での安全行動の推進
- ・ 不安全行動
- ・ 患者中心のチーム医療安全
- ・ ポジティブ心理学
- ・ 医療安全におけるレジリエンス
- ・ 医療安全における認知行動・心理
- ・ ジョブストレスと医療安全
- ・ 医療安全におけるコミュニケーション
- ・ 医療安全における教育・相談(カウンセリング・コーチングを含む)
- ・ 患者経験価値(Patient experience(PX))
- ・ 医療安全における患者支援
- ・ 医療安全における倫理・モラル
- ・ 医療安全におけるリーダーシップ・フォロワーシップ
- ・ 医療安全における心理的安定性
- ・ 医療安全におけるインフォームドコンセント
- ・ 医療安全におけるピア・サポート
- ・ 医療安全におけるチーム行動・組織文化
- ・ 医療安全におけるガバナンス
- ・ 医療安全における法的対応
- ・ 医療安全における心理・行動上のその他の課題

次年度 第3回 医療安全心理・行動学会学術総会のお知らせ

会期: 2025年9月27日～28日
場所: 東京大学本郷キャンパス
ホームページ: <https://mspo.org/msspb/3rdpsyb/>

共同総会長: 鈴木 高弘 (横浜薬科大学 薬学部)
秋富 慎司 (日本医師会総合政策研究機構)
堀田 まゆみ (東海大学医学部附属八王子病院 看護部)

プログラム委員長: 井上 清成 (井上法律事務所)
プログラム副委員長: 横山 佳代子 (大圃病院診療技術課)

組織委員長: 四柳 宏 (東京大学医科学研究所附属病院)
組織副委員長: 大山 実 (株式会社ワイズマン経営企画部)

日程表 2025年3月8日(土)

3月8日	招聘・特別・教育講演等 シンポジウム・パネル討論会・一般口演	
会場	大阪大学コンベンションセンター 2F 会議室2 (120人)	大阪大学コンベンションセンター 2F 会議室3 (120人)
9:00	受付開始 9:00-	受付開始 9:00-
9:30		
10:00	開会式 ご挨拶 共同総会長挨拶 15分 学会概要説明等	
10:30	SP01 招聘講演・特別講演②60 安全活動を再整理する： Why, What, Howの 3つの活動レイヤーとそのポイント 演者：小松原 明哲 座長：藤田 眞幸 10:20-11:20	PN02 パネルディスカッション 企画：郷間 巖
11:00		
11:30	EL01 教育講演40 社会的厚生に資する 医師の医療意思決定と医療倫理 演者：藤井 聡 10:40-12:00	
12:00	昼休憩(お弁当予約制)	昼休憩(お弁当予約制)
12:30	定例理事会 30 12:30-13:00	
13:30	12:30-13:30	12:30-13:30
	PN01 パネルディスカッション 90 手術部位間違い発生時に感じた違和感を探る 座長：遠藤 純男	SP03 市民公開講座 医療事故発生時の「患者に信頼される情報共有」 の在り方を考える 座長：新村 美佐香 演者：勝村 久司、岡本 佐和子、原 昌平
15:00	13:30-15:00	15:00-16:30
	SP02 招聘講演・特別講演③60 グループ全体で取り組む医療安全管理体制の確立 —重大事故等検討分科会の活動報告— 演者：佐藤 一彦 座長：遠藤 純男 15:00-16:00	SN01 評議員交流会：看護系 座長：新村 美佐香、大原 志歩 11:30-12:30
16:00		

日程表 2025年3月9日(日)

3月9日	招聘・特別・教育講演等 シンポジウム・パネル討論会・一般口演	
会場	大阪大学コンベンションセンター 2F 会議室2 (120人)	大阪大学コンベンションセンター 2F 会議室3 (120人)
9:00	受付開始 9:30-	受付開始 9:30-
9:30	SN02 総会長シンポジウム 60	
10:00	医療安全へのアプローチ:総会長からのメッセージ 座長: 新村 美佐香	PN03 パネルディスカッション
10:30	11:30-12:30 SP04 招聘講演・特別講演①60	服薬管理で発生する誤薬とその背景 ~病院・介護施設・在宅の視点から~(仮) 座長: 小山 智史
11:00	医療安全の実践に活かす認知行動論 演者: 平井 啓 座長: 篠原 一光	10:00-11:00 SN03 評議員交流会: 薬剤系
11:30	10:30-11:30 EL02 教育講演30 タイトル未定 演者: 竹村 和久 座長: 辻本 広紀	座長: 鈴木 高弘
12:00	昼休憩(お弁当予約制)	11:00-12:00 昼休憩(お弁当予約制) 定例評議員会 30
13:00	SP05 招聘講演・特別講演①40 ウェルビーイングの概念と測定 :心理・行動学の知見からの示唆 演者: 中川 威 座長: 篠原 一光	12:10-12:40
14:00	SP06 特別講演40 ヒューマンエラーの認知 演者: 下田 宏	NP01 一般演題 座長: 小山 智史 大原 志歩 1演題20分(質疑応答5分含む)
14:30	EL03 教育講演40 「怒り」について —その本質と医療現場での向き合い方— 演者: 平井 理心	13:30-14:30
15:00	次期共同総会長 ご挨拶	NP02 一般演題 座長: 小山 智史 大原 志歩
15:30	閉会式	14:40-15:20
16:00		

報道関係の方へ

1. 報道機関、出版社の取材記者の方へ

- ・ 会場参加のみ可能です。オンデマンドのみの参加はできません。予めご了承ください。
- ・ 参加費は無料です。参加をご希望の場合はメールにてお問い合わせください。
当日は会場受付にお越しになり、名刺をお渡してください。
【電子メール】 2psyb@mspo.org
- ・ 抄録集(印字版)をご希望の際には、1部3,000円にて購入いただけます。
- ・ 本学術総会の開催ついて貴社を通じて広く社会へ広報していただけますと幸いです。

展示企業の方へ

1. 展示場所

- ・ 大阪大学コンベンションセンター1階ロビーです。
- ・ 各企業の展示は学会から指定された場所を使用してください。配置表を別送します。

2. 展示時間

- ・ 3月8日(土) 10:00 ~ 16:00
- ・ 3月9日(日) 9:30 ~ 16:00

3. 資材の搬入

- ・ 3月8日(土) 8:30以降に搬入及び設置をお願いいたします。

4. タクシーや自家用車での搬入・搬出の方法

- ・ 会場入り口前に車を停めて搬入・搬出が可能です。
- ・ 専用駐車場はありません。駐車のご負担いただきますようお願いいたします。

5. 貸出物

- ・ 展示ブース1小間は、幅180cm×奥行150cmです。以下貸出が可能です。
 - ・ テーブル1台(180cm×60cm)、椅子2脚
 - ・ 電源: 壁コンセントがあります。別送の配置表に明記します。利用される場合は10メートル延長コードと電源タップを持参してください。
- ・ その他(バックパネル等)はご自身でご用意ください。

6. 昼食

- ・ 会場近隣には飲食店がありません。ご持参いただきますようお願いいたします。

7. インターネット

- ・ Wi-Fiをご利用の際にはアカウントを発行いたしますため事務局へご一報ください。

交通のご案内



【電車】

阪急電車千里線 北千里駅（終点）下車 東へ徒歩約30分

【モノレール】

大阪モノレール 阪大病院前駅下車 徒歩約10分

【バス】

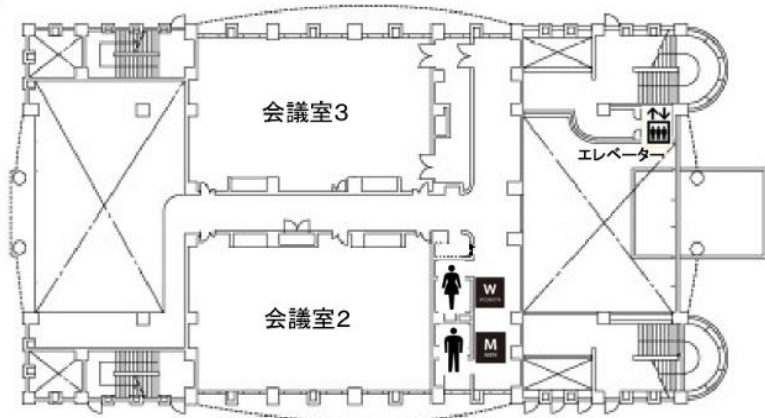
- ・ 阪急バス
- ・ 千里中央発「阪大本部前行」、「阪大歯学部病院前行」
※2024年3月23日から運行本数が大幅に減りましたのでご注意ください。
- ・ 北千里発「阪大病院線」
※千里中央発、北千里経由もあります。
- ・ 近鉄バス
阪急茨木市駅発「阪大本部前行」（JR 茨木駅経由）

いずれも、阪大医学部前または阪大本部前下車 徒歩約5~10分

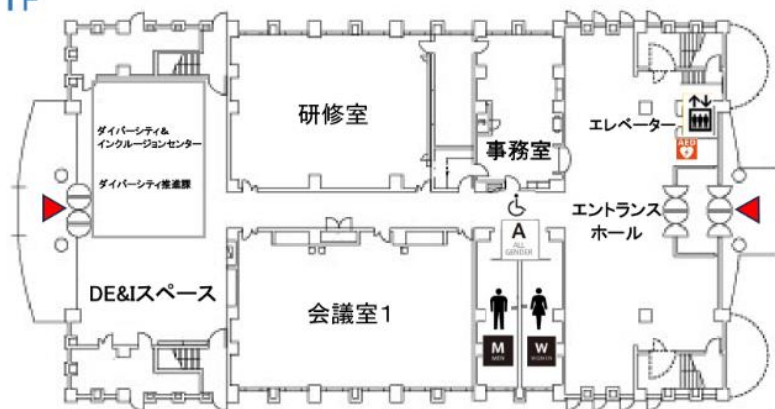
<https://facility.icho.osaka-u.ac.jp/convention/map.html>

会場のご案内

2F



1F



1階： 受付、企業展示、研修室（演者控室、演者打合せ室）

2階： 会議室2、会議室3（プログラム会場）

飲食について

近隣の飲食店のご案内が難しいため、昼食をご持参いただけますと幸いです。

演者および事前参加申込済の方はお弁当のご案内を別途お送りさせていただきます。

理事会・評議員会に出席の役員の先生方は別途お弁当を用意しております。出欠予定の変更の際には事務局へご連絡ください。

座長・演者へのお知らせとお願い

1. 座長の方へ

- ・ 座長の受付はございません。ご担当セッションの開始10分前までにご入場ください。
- ・ 進行は時間厳守をお願いいたします。アナウンス係の準備はございませんので、時間になりましたら開始してください。

2. 特別講演・招請講演および官庁講演、教育講演の発表の方法

- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場左側前方）にお越しください。

3. シンポジウムの発表の方法

- ・ 講演は1人の発表者につき原則15分です。座長からの指示がある場合は別途ご対応ください。
- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場左側前方）にお越しください

4. パネル討論会の発表の方法

- ・ 講演は1人の発表者につき原則15分です。座長からの指示がある場合は別途ご対応ください。
- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場左側前方）にお越しください。

5. 口演発表の方法

- ・ 一般演題(口演)は1題10分(質疑応答2分含む)です。
- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場左側前方）にお越しください。

6. 発表形式について

- ・ パワーポイント用データ保管のUSBメモリーをご持参ください。
- ・ USBメモリーをご自身でPCに装着したのちご自身でご操作ください。
- ・ リモコン操作器具をご用意いたします。
- ・ PC(Windows7ないしWindows10)一台をご用意できます。
- ・ マッキントッシュPCをご持参の場合: モニターとの接続ケーブルをご持参ください。

7. 学会賞

医療安全ファシリテーション賞(優秀賞)

- … 一般演題から若干数を選考・授与します。選考は参加者の投票を基に、総会長らが選考します。対象者へ学会機関誌「医療安全の心理・行動」に受賞論文としての寄稿を依頼します。

医療安全ファシリテーション賞(功労賞)

- … 発表演題数に応じて授与します。

プログラム 3月8日

(第1会場) 2025年3月8日

大阪大学コンベンションセンター 2F 会議室2

SP01: 招聘講演・特別講演

10:30-11:30

テーマ: 安全活動を再整理する : Why, What, How の3つの活動レイヤーとそのポイント

座長: 藤田 眞幸 (慶應義塾大学医学部法医学教室 教授)

演者: 小松原 明哲 (早稲田大学理工学術院 教授)

EL01: 教育講演

11:30-12:10

テーマ: 社会的厚生に資する医師の医療意思決定と医療倫理

演者: 藤井 聡 (京都大学大学院工学研究科教授、京都大学レジリエンス研究ユニット長)

PN01: パネルディスカッション

13:30-15:00

テーマ: 手術部位間違い発生時に感じた違和感を探る

座長: 遠藤 純男 (大和徳洲会病院 医療安全管理部長)

I. はじめに

大坪まゆ美 (医療安全管理部会部会長、一般社団法人徳洲会 医療安全・感染管理部顧問)

II. 事例の背景と再発防止策

江口 陽子 (看護師長)

松田 和美 (看護副主任)

III. 事例紹介

山上 浩 (医療安全管理専任医師、救急救命センター 副院長)

IV. まとめ

大坪 まゆ美 (医療安全管理部会部会長、一般社団法人徳洲会 医療安全・感染管理部顧問)

佐々木 史博 (東京本部医療安全質管理部)

SP02: 招聘講演・特別講演

15:00-16:00

テーマ: グループ全体で取り組む医療安全管理体制の確立
—重大事故等検討分科会の活動報告—

座長: 遠藤 純男 (大和徳洲会病院 医療安全管理部長)

演者: 佐藤 一彦 (東京西徳洲会病院 名誉院長 包括的がん診療センター長
乳腺腫瘍センター長 外科統括部長)

(第2会場) 2025年3月8日

大阪大学コンベンションセンター 2F 会議室3

PN02: パネルディスカッション

10:40-12:00

企画: 郷間 巖 (堺市立総合医療センター呼吸器内科)

SP03: 市民公開講座

11:50-12:10

テーマ: 医療事故発生時の「患者に信頼される情報共有」の在り方を考える

座長: 新村 美佐香 (菊名記念病院)

講座1 医療への患者参加が進まない背景と医療安全の関係

演者: 勝村 久司 (「医療情報の公開・開示を求める市民の会」代表世話人、
「産科医療補償制度再発防止委員会」委員)

講座2 医療者と患者の信頼関係を高めるオネストトーキング

演者: 岡本 佐和子 (奈良県立医科大学講師、元ジョーンズホプキンス大学患者支援員)

講座3 医療事故発生時の患者側の心理と医療者側がとるべき行動

演者: 原 昌平 (精神保健福祉士、元読売新聞編集委員)

SN01: 評議員交流会: 看護系

13:00-13:30

座長: 新村 美佐香 (菊名記念病院)

大原 志歩 (済生会横浜市東部病院)

プログラム 3月9日(日)

(第1会場) 2025年3月9日

大阪大学コンベンションセンター 2F 会議室2

SN02: 総会長シンポジウム

9:30-10:30

テーマ: 医療安全へのアプローチ: 総会長からのメッセージ

座長: 新村 美佐香 (菊名記念病院)

共同総会長: 篠原 一光 (大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
藤田 眞幸 (慶應義塾大学医学部法医学教室 教授)
遠藤 純男 (大和徳洲会病院 医療安全管理部長)

SP04: 招聘講演・特別講演

10:30-11:30

テーマ: 医療安全の実践に活かす認知行動論

座長: 篠原 一光 (大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

演者: 平井 啓 (大阪大学人間科学研究科)

EL02: 教育講演

11:10-12:00

テーマ: (未定)

座長: 辻本 広紀 (防衛医科大学附属病院医療安全管理)

演者: 竹村 和久 (早稲田大学心理学教授)

SP05 : 特別講演・招請講演

13:00-14:00

テーマ: ウェルビーイングの概念と測定: 心理・行動学の知見からの示唆

座長: 篠原 一光 (大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

演者: 中川 威 (大阪大学大学院人間科学研究科)

SP06 : 特別講演

14:00-14:40

テーマ: ヒューマンエラーの認知

演者: 下田 宏 (京都大学 ヒューマンファクターズ分野 教授)

EL03 : 教育講演

14:50-15:20

テーマ: 「怒り」について—その本質と医療現場での向き合い方—

演者: 平井 理心 (筑波大学附属病院臨床心理)

次期共同総会長 ご挨拶、閉会式

15:30-16:00

(第2会場) 2025年3月9日

大阪大学コンベンションセンター 2F 会議室3

PN03 : パネルディスカッション

10:00-11:00

テーマ: 服薬管理で発生する誤薬とその背景～病院・介護施設・在宅の視点から～ (仮)

座長: 小山 智史 (京都橘大学看護学部)

SN03 : 評議員交流会 : 薬剤系

11:00-12:00

テーマ: 医薬品安全管理に関するトピックス

座長: 鈴木 高弘 (横浜薬科大学実務実習センター)

演者: 齋藤 義貴 (医療法人財団明理会 東戸塚記念病院 薬剤部/医療安全管理部門)

横山 佳代子 (医療法人杏仁会大圃病院人事部、診療技術科)

望月 敬浩 (静岡県立静岡がんセンター薬剤部)

NP01： 一般演題

13:30-14:30

座長：小山 智史（京都橘大学看護学部看護学科 准教授）
大原 志歩（済生会横浜市東部病院）

テーマ：患者からの感謝 vs 仲間からの感謝
—どちらの感謝の方が、看護師のバーンアウトに影響を与えるのか—

演者：Nguyen Phuong Anh、伊藤 篤希、中井 宏（大阪大学大学院人間科学研究科）

テーマ：在宅糖尿病患者を対象にしたマイクロニードルによる
新たな治療デバイス開発に対する患者意向と現行の生活の質に関する予備調査

演者：窪島 領子、難波 貴代、岩屋 裕美、遠藤 雅幸、加藤 博之、田中 悠美、松田 真由美、
豊増 佳子、高柳 良太、掛田 崇寛、坂元 昇

テーマ：助産所事故における心理・行動の法的分析

演者：井上 清成、古宇田 千恵

(2022年4月3日付)

医療安全心理・行動学会による学会認定の 「医療安全心理・行動コンサルタント」資格制度について (Ver1)

(概要) 下記の全科目を受講し、当該認定試験に合格した医療安全心理・行動学会の会員へ認定証を交付する。
本制度は2022年5月より実施する。

(目的) 医療安全にかかわる心理・行動の安全に特化した高度な資格制度によって医療安全心理・行動コンサルタントを育成し、医療安全文化をより高度にする。

(対象者) 医療従事者、心理士、行動研究者、コミュニケーション研究者、組織行動研究者、社会学研究者、法曹界などで、かつ医療安全心理・行動学会の会員。

(受講科目)

(科目名)	(授業形式)	(実施日数)	認定試験の有無	備考
医療安全概論	講義	2日間	無	
医療安全倫理・モラル研修会	講義	1日間	無	
臨床安全コミュニケーター(基礎編)	講義/実習	連続する2日間	有	
臨床安全コミュニケーター(クライシス編)	講義/実習	連続する2日間	有	
チーム医療安全研修会	講義/実習	連続する2日間	有	
相談・コンサルテーション研修会	講義/実習	連続する2日間	有	

・全科目を国際医療リスクマネジメント学会が主催し、医療安全心理・行動学会は後援団体。

(学会認定「医療安全心理・行動コンサルタント」資格の取得要件)

- ・資格申請者は医療安全心理・行動学会の会員であること。
- ・「学会認定の医療安全心理・行動コンサルタント」資格制度の全科目を3年以内に取得すること。
- ・「学会認定の医療安全心理・行動コンサルタント」資格を希望する者は、すべての認定合格証をそろえて医療安全心理・行動学会へ申請する。
- ・認定試験を行わない科目では、その受講終了証を以て認定合格書証の代わりとする。
- ・本資格申請時に申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

(学会認定「医療安全心理・行動コンサルタント」資格の再認定の取得要件)

- ・資格認定の有効期間は資格取得後の5年間とする。
- ・再認定を希望する場合は、過去5年間にわたる医療安全心理・行動学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定の際には新たな科目を追加する場合がある。
- ・再認定時には申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

(学会認定「医療安全心理・行動コンサルタント」資格の申請方法)

A) 申請に必要な資料書類(原本の場合はその写し)を用意する。

B) 申請費を下記口座へ振り込む。

銀行支店名: 三菱UFJ銀行 本郷支店

イッパンシャダンホウジン コクサイイリョウアンゼンスイシンキコウ

口座名義: 一般社団法人 国際医療安全推進機構

口座番号: 普通 0328852

C) A)の資料と B)の振込控えを以下へ郵送する。

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102

一般社団法人 国際医療安全推進機構内

医療安全学心理・行動学会

以上

医療安全の心理・行動

医療安全心理・行動学会機関誌

(印字版) ISSN 2758-2655

<https://mspo.org/msspb/journal/index.html>

発行: 医療安全心理・行動学会

「医療安全の心理・行動」編集事務局

医療安全心理・行動学会本部内

(〒) 113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102

(電子メール) pjournal@mspo.org

本誌が引用される国内の主なデータベース

[国立国会図書館蔵書検索・申込システム](#)

[医学中央雑誌データベース](#)

機関誌「医療安全の心理・行動」刊行案内

医療安全推進機構(MSP0)は医療安全に関する心理・行動課題の解決のために「医療安全心理・行動学会」を設立しました。その学会機関誌として「医療安全の心理・行動」を刊行し、学会員の研究論文の蓄積を以て医療に貢献します。様々な関連分野の専門家から構成される編集委員を構成し、学会内部に蓄積します。

本雑誌は国会図書館データベース、東大医学図書館経由での全国医学図書館データベースなどにおいて公開しています。

編集の方針

- 1) 投稿論文は査読審査されます。
- 2) 発行は電子版のみです。
- 3) 日本語論文のみを掲載します。英文論文の場合は国際医療リスクマネジメント学会機関誌「Journal of Medical Safety」に投稿ください。
- 4) 氏名、所属、住所および抄録の英文を付けてください。

投稿規定

「医療安全の心理・行動」は医療安全心理・行動学会における研究報告等を受け付ける。その投稿は以下の規定による。

1. 投稿原稿は総説、原著論文、短報、その他とし、区分はつぎのものとする。
 - 1) 総説: 医療安全の心理・行動に関する諸問題を客観的な資料・考察に基づいて広い視点から論じたもの。
 - 2) 原著論文: 独創性のある理論的または実証的な研究で、完成度の高いもの。
 - 3) 短報: 独創性、緊急性のある萌芽的研究で、発展性の期待できる研究を手短にまとめたもの。短報は電子版「医療安全の心理・行動」誌にのみ掲載されます。
 - 4) その他: 症例報告(医療事故の治療経験など)・各医療機関でのベストプラクティス・トピックス・意見など、編集委員会で必要性を認めたもの。
 2. 「医療安全の心理・行動」の原稿は邦文ないし英文とする。
 3. 投稿論文は未発表・未掲載のものとする。他雑誌に掲載されたものを重複して投稿してはならない。
 4. ヒトおよび動物を対象にした研究論文は、1975年のヘルシンキ宣言(1989年改訂)の方針に従い、必要な手続きを踏まなければならない。
-

ヘルシンキ宣言 (1964年, 1975年, 1983年, 2003年改訂)、臨床研究に関する倫理指針 (厚生労働省, 平成20年7月31日改正)、疫学研究に関する倫理指針 (厚生労働省, 文部科学省, 平成20

年12月改訂)、医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドラインなどの倫理的指針に従い、必要なものについては施設の倫理委員会、Institutional review board (IRB)の承認を得、その由を論文に記載する。さらに、「個人情報の保護に関する法律」(平成17年4月)などその時代に遵守すべき法令・省令を遵守する。症例報告などのプライバシー保護に関しては外科系学会協議会による「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」に従うこと。動物を用いた研究では、各施設の動物委員会などが定めた基準に従い慈愛深く取り扱い、このことを記載しなくてはならない。臨床試験は、臨床試験登録公開制度システム (UMIN-CTR など) に登録する。ランダム化比較試験 (randomized controlled trial; RCT) では、CONSORT 声明に従う。また、科学研究として公平性・信頼性を確保するため、企業等との利益相反について明確にする必要がある。論文採用決定後は、「学会誌 (Palliative Care Research) 論文発表者の報告事項」に定める事項について「利益相反事項届出書 (学会誌発表者用)」の提出をしなければならない。

-
5. 投稿原稿の査読、採否および掲載順序などは編集委員会において決定し、編集委員長の名で著者に連絡する。
 6. 原則として、投稿原稿は別に定める「執筆要項」に従った原稿によるものとし、和文原稿では英文の抄録ならびに英・和それぞれ5語前後のキーワードを原稿につける。
 7. 投稿原稿は e-mail にて「医療安全の心理・行動」編集事務局に送付する。その際には、他雑誌に未発表・未投稿である旨を宣言した書面を沿えて、下記宛に送る。また、書面に総説、原著、短報、その他のいずれの категория として投稿するのかを明記すること。別途印刷物を編集事務局に2部送付する。
 8. 掲載された原稿の著作権は医療安全推進機構会に属する。但し、執筆者が使用する場合本会の許諾を必要としない。

投稿先

「医療安全の心理・行動」編集事務局
医療安全心理・行動学会本部内
(〒) 113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102
(電子メール) pbjournal@mspo.org

「医療安全の心理・行動」の執筆要領

1. 原稿はワープロソフトを用い、横書き、新かな使い、常用漢字の楷書で記載する。句読点および括弧は一字とする。投稿原稿の枚数は図表などを含めて刷り上がり8頁以内（1頁約2000字）とする。頁数を超過した場合には、超過分の費用を徴収する。ワープロソフトはWord等のWindows系のソフト、あるいはPDFファイルで送付すること。
2. 外国語の人名、地名、学名はタイプまたはブロック体で記載する。ただし、カタカナでもよい。
3. 和文抄録（400字以内）及び英文抄録（400語以内）を作成する。また、氏名、所属、連絡先を英文でも記載する。原著論文の場合には目的、対象と方法、結果、考察および結論として見出しをつけて記載すること。
4. 原稿の1頁目には、表題、著者名、所属機関名、別刷請求先、連絡先住所、表および図の数などを記載すること。
5. 図表は必要最小限にとどめること。図は白黒とする。図表は不都合なときには、使用ソフトなどについて編集委員会がその都度指示する。図説明文は別頁とする。
6. 本雑誌の単位符号は原則としてSI単位を用いる。（JISZ8203参照）
例：1）長さ、面積、体積 km, m, cm, mm, μm , nm（特殊な分野では \AA ）
7. 引用文献は引用順とし、末尾文献表の番号を両括弧数字で記す。雑誌の場合、全著者名・表題・雑誌名・年号：巻数：頁ー頁、の順に記す。
 - （1）田島静, 千々和勝己. 初夏に某小学校で発生した小型球形ウイルス（SRSV）による集団食中毒事例. 日本公衆衛生雑誌 2003: 50: 225-233.
 - （2）Adamson J, Hunt K, Ebrahim S. Socioeconomic position, occupational exposures, and gender: the relation with locomotor disability in early old age. J Epidemiol Community Health 2003;57: 453-455.単行本の場合、編・著者名・書籍名・所在地：発行所、発行年：頁、の順に記す。
引用頁は全般的な引用の場合には省略することができる。
 - （3）川上剛, 藤本瞭一, 矢野友三郎. ISO 労働安全・衛生マネジメント規格. 東京：日刊工業新聞社, 1998.
 - （4）Detels R, McEwen J, Beaglehole R, Tanaka H. Oxford Textbook of Public Health. The Scope of Public Health. Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press, 2002.
 - （5）川村治子. リスクマネジメント. 高野健人他編. 社会医学事典. 東京：朝倉書店. 2002:98-99.
 - （6）Detels R, Breslow. Current scope and concerns in public health. In: Detels R, McEwen J, Beaglehole R, Tanaka H. Oxford Textbook of Public Health. The Scope of Public Health. Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press, 2002: 3-20.
8. 本文の最後に、別紙「利益に関する開示文書」に従って利益相反に関する開示事項を記載する。

「医療安全の心理・行動」編集委員会

編集長	鈴木 高弘 (横浜薬科大学実務実習センター)
編集委員	栗原 慎太郎 (長崎大学付属病院医療安全)
	佐久間 泰司 (大阪歯科大学歯学部医療安全)
	田仲 浩平 (東京工科大学臨床工学)
	中村 京太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター医療安全)
	長島 久 (富山大学附属病院医療安全)
	深貝 隆志 (昭和大学附属病院泌尿器科、医療安全)

(別紙) 利益に関する開示文書

医療安全心理・行動学会誌「医療安全の心理・行動」における利益相反の開示すべき項目

1. 産学連携活動に係る受け入れ額が、1 企業あたり年間 200 万円以上 (所属機関からの間接経費が差し引かれる前の金額) の場合
2. コンサルタント・指導・講演・給与としての個人収益が、1 企業あたり年間 100 万円以上 (税金や源泉徴収額を引く前の金額) の場合
3. 産学連携活動に係る個人収益 (公開・未公開を問わず、当該企業の株式等の出資・取得・保有及び売却・譲渡、ストックオプションの権利譲受、もしくは、役員報酬、特許権使用料等) が 1 企業あたり年間 100 万円以上あった場合 (但し、投資信託、もしくは、当該個人によって管理・制御できない多角的なファンドにおいて資金運用される場合を除く)
4. 上記 1~3 のいずれかに該当する企業に一親等の親族が現在勤務している場合

該当しない場合には「医療安全心理・行動学会誌「医療安全の心理・行動」の定める利益相反に関する開示事項はありません。」と論文の末尾に記入する。

該当する場合には「医療安全心理・行動学会誌「医療安全の心理・行動」の定める利益相反に関する開示事項に則り開示します、(企業名) から (〇〇円).」と論文の末尾に記入する。

なお、個人収益の場合は、前年の 1 月 1 日から 12 月 31 日までとする。ただし、寄付金や企業からの受託等、産学連携活動に係る研究の場合は、前年 4 月 1 日から本年 3 月 31 日までの期間でも可とする。

以上

第12回医療のための安全心理・安全行動国際学術集会

IARMM The 12th World Congress of Clinical Safety

--- Wellbeing with Healthcare Safety -

Date: 1 -2 May 2025

Paris, France

by
International Association of Risk Management in Medicine(IARMM)

(Official language) English, French.
Transtation between French and English speach.



“Call for Abstracts”:
From 1 Sep 2024 to 31 Oct 2024

Congress registration:
(Presenter whose abstract is accepted)
From 1 Feb 2025 to 31 Mar 2025
(Audience without a visa for France)
From 1 Feb 2025 to 15 April 2025
(Audience requested a visa for France)
From 1 Feb 2025 to 15 Mar 2025

Contact details:

12wccs@iarmm.org

<http://www.iarmm.org/12WCCS/>

2025年5月1日~5月2日
主催: 国際医療リスクマネジメント学会

医療安全心理・行動学会のホームページ

<https://mspo.org/msspb/>

定価 3千円 (税込)

第2回医療安全心理・行動学会学術総会事務局

一般社団法人 国際医療安全推進機構内

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102

TEL: 03-6801-6922 FAX: 03-6801-6987

Email: 2psyb@mspo.org